

---

# 大学教育学会ニュースレター

No.79 2008.9.26

---

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局:北海道医療大学内 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL0133-23-1487(直通)/FAX:0133-23-1487

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: [ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp](mailto:ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp) URL: <http://www.daigakukyoiiku-gakkai.org/>

---

## 「大学教育学会2008年度課題研究集会」

### 統一テーマ「学生の主体的な学びを広げるために」

2008年度課題研究集会企画委員会委員長

田中每実(京都大学)

「学生の主体的な学び」は、教育の古くて新しいテーマです。しかし、今日、高等教育のユニバーサル化が進行し、学生の多様化が進む中で、学生の学習ニーズを創出し、それに応えることはひどく難しくなっています。学生の中には、あいかわらず、大学合格を自己目的化し、卒業・就職までの数年間を人生のモラトリアムとして「自由に」過ごすことを第一に考える大学教育無関心派も、なお少なからず存在します。しかし、近年の特徴として、学生自身が大学の「学校化」を期待し、決して安くはない対価に見合った「質の高い大学教育」の提供を望むといった風潮もみられます。この一部の学生の計算高い「注文の多さ」は、大学教育の説明責任重視という社会的風潮によって、よりいっそう促進されているようです。他方では、「ティーチングからラーニングへ」という理念が、一部で高唱され、一部の教員たちに、自分たちの教育実践について自省を促す効果も生み出しています。さらに、今日では学生が「主体的に学ぶ」姿が、各地の大学で紹介されたり公開されたりもしています。但し、これ自体は、従来から存在する「積極的・能動的に学ぶ学生」がごく素直に自己を表現しているに過ぎない場合が多いようです。

それでは、マジョリティとしての一般学生を主体的な学びに誘うにはどうすればよいのでしょうか。まさにこの点に焦点化するとすれば、「主体的な学び」は、ユニバーサル化した今日の大学教育にとってこそ問われるべき、大切な課題となるでしょう。

本課題研究集会では、これまで学会が継続して追究してきている4つの研究課題についてシンポジウムを開催いたします。どれをとっても重要な今日的課題であり、本集会の「学生の主体的な学び」という共通テーマとも直接・間接に関わっています。

今回の集会では、開催校企画として、特別シンポジウムも企画いたしました。シンポジストとして学生も加わり、高校段階での主体的な学びを重視する京都市立堀川高校の校長先生や、昨今の大学の変化を取材し続けている読売新聞の記者からも、大学での主体的な学びについての提言を受けます。フロアーを交えて活発な討論が展開されることを期待しています。

できるだけ数多くの会員の皆さんに、岡山の地に足を運んでいただき、議論が盛り多いものとなることを切望しております。

大学教育学会  
2008 年度課題研究集会  
実施要項

統一テーマ：「学生の主体的な学びを広げるために」

主催：大学教育学会 後援：岡山大学

期日：2008 年 12 月 6 日（土）・7 日（日）

会場：岡山大学創立 50 周年記念館（岡山市津島中 1 丁目 1-1）

スケジュール

第 1 日：12 月 6 日（土）（岡山大学 創立 50 周年記念館多目的ホール）

12:00 13:00 13:30 17:30 18:00 20:00

受付	開会 行事	開催校企画 特別シンポジウム (途中に休憩 30 分)	移動	懇親会
----	----------	-----------------------------------	----	-----

懇親会 リーセントカルチャーホテル（会場から徒歩 7～8 分）

第 2 日：12 月 7 日（日）（岡山大学 創立 50 周年記念館多目的ホール及び 2 F 大会議室）

9:00 9:30 12:00 13:15 15:45 16:00

受付	シンポジウム I シンポジウム II	昼食	シンポジウム III シンポジウム IV	開会行事
----	-----------------------	----	-------------------------	------

シンポジウム I（多目的ホール）

「学士課程教育の改革へのアプローチをどのように進めるか」

シンポジウム II（2 F 大会議室）

『『大学人』能力開発に向けて—国立大学の現在—』（仮）

シンポジウム III（多目的ホール）

「FD のダイナミックス —— FD モデル構築へむけた今後の課題」

シンポジウム IV（2 F 大会議室）

「科学技術リテラシー教育と『学士力』の育成」

関連行事

12 月 6 日（土）10:00～12:00 常任理事会（創立 50 周年記念館 2 F 大会議室）

第 1 日目 ————— 創立 50 周年記念館

12:00 受付開始（1 F ロビー）

13:00～13:30 開会行事（多目的ホール）

学会長挨拶 寺崎昌男（大学教育学会会長）

開催校挨拶 佐藤豊信（岡山大学教育・学生担当副学長 課題研究集会実行委員長）

13:30～17:30 開催校企画特別シンポジウム（多目的ホール）

### 「学生の主体的な学びを広げるために」

主旨：今日、大学教育の重心がティーチングからラーニングへと移ることの重要性が説かれ、学生の主体的な学びの必要性が各方面から主張されているが、単なる方向性の提示ではなく、具体的にどうすればよいのか、また、一般の学生たちがこのことを自覚・実感するにはどうすればよいのかは必ずしも明瞭ではない。教員が躍起になっても、学生たちがこれに呼応しなければ実質的な転換にはつながらない。この開催校企画シンポジウムでは、普通の学生の「生の声」を拾い上げながら、大学外の識者の声にも耳を傾け、より多くの学生が主体的な学習に積極的に取り組むための具体的な方策について活発に議論したい。

シンポジスト・コメンテーターと話題提供演題：

小林 歩美（岡山大学教育学部3年生）「学生からみた学生の主体的学びの実態」（仮）

松本 美奈（読売新聞東京本社記者）「大学取材から垣間見えた現代学生の主体性」（仮）

荒瀬 克己（京都市立堀川高校校長）「高校生の主体的学びと大学・大学生への期待」（仮）

橋本 勝（岡山大学教育開発センター教授）「主体的な学びへの誘い方・乗せ方」（仮）

コメンテーター

松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）「主体的な学びの原点」（仮）

司会者：小山悦司（倉敷芸術科学大学）、山野井敦徳（くらしき作陽大学）

17:30～18:00 懇親会会場への移動

徒歩7～8分程度ですが、移動用バスも用意します。（17:45発、但し最大27名まで）

18:00～20:00 懇親会

（リーセントカルチャーホテル 3Fホワイトインシグニアの間）

※ 懇親会場のホテルにそのまま宿泊することも可能です。（別紙宿泊案内を御参照下さい。）

## 第2日目—————創立50周年記念館

9:00 受付開始（1Fロビー）

9:30～12:00 **2会場同時進行**

シンポジウムI（多目的ホール）

### 「学士課程教育の改革へのアプローチをどのように進めるか」

趣旨：日本の学士課程教育は、各大学が自らの教育理念やミッションに基づき、どのような能力やスキルを身につけるかという到達目標を自ら設定することも含め、新たな改革が求められるようになった。これは自らの使命、現在学んでいる学生のニーズや特徴についての現状分析等に基づき、各大学が自らの個性を活かしつつ、学士課程にふさわしい内容を構築していくことが求められるということに他ならない。こうした検討をどのように進めるかについて、国内外の先行事例を参考に議論していく

① リベラルアーツ学部・学群(Late Specialization)型中小規模私学

：交渉中（大手前大学）

②大きく入り入試・学域型：交渉中（金沢大学）

③全学部・学科でボトムアップ型で到達目標づくりに取り組む

：交渉中（愛媛大学）

司会：濱名 篤（関西国際大学）

コメンテーター：舘 昭（桜美林大学）

シンポジウムⅡ (2F大会議室)

### 『「大学人」能力開発に向けて—国立大学の現在—』(仮)

趣旨文(案)：教職員の別なく大学教育研究を活性化させる活動を行うことが日本の大学の未来を拓くと考える我々研究委員会は、教職員の「協働」を手がかりにして「大学人」としての能力を育てる方策を追求している。従来は独自の建学の理念と伝統を持つ私立大学に見られる先進例を扱ってきたが、今回は国立大学を対象にして現在におけるその努力の実態に触れ、それが持つ独自の可能性を確認したい。私立大学職員が所属大学内で完結した職務を持ち、大学内で異動する人事政策の下に所属の「大学人」となる可能性を持つのに対して、国立大学では幹部職員が大学を超えて異動し、私立大学とは異なる人事政策の中で育成されている。この環境にあって、現状の各国立大学ではどのように「大学人」として所属大学の活性化の核となる人物を育成しているのか、あるいはその道を模索しているのか、そしてそのことが同じく「大学人」たるべき教員の目指す大学の活性化にとってどのような意味と可能性を与えるのか、今回のシンポジウムで検証する。このことは、既にそのような活動を先進的に進めている私立大学にとっても、新たな可能性を発見する機会にもなりえよう。

講師候補：国立大学教員(複数の国立大学勤務経験者)

司会者(案)：佐々木一也(研究委員会代表)

12:00～13:15 昼食休憩 (当日は生協も営業中のため弁当は手配しません。)

13:15～15:45 **2会場同時進行**

シンポジウムⅢ (多目的ホール)

### 「FDのダイナミクス — FDモデル構築へむけた今後の課題」

課題研究「FDのダイナミクス—第一次調査のフォローアップと新たなモデル」に取り組んできたこの3年間は、まさしく大学のFD状況が大きく変化した時期であった。2008年度からのFD法制的義務化により、各大学は、FDに関して何らかの対応をとることを迫られている。80年代より一貫してFDの意義と重要性を主張してきた本学会としては、こうした社会変化を受けて、今何が問題なのか、今後どう展開すべきかといった課題に応えることを迫られている。

法制化に対して義務を果たすための消極的・定型的FDに終始するのではなく、我々大学人自らが、積極的にその状況を捉えて、実質的なFDを主体的に展開していくことが求められているのである。

本年の大学教育学会ラウンドテーブル(目白大学)において、本課題研究は、各論的に、学生支援、FD研究方法論、FDの評価の観点から、FDの原理的実践的な方向性を探った。

本課題研究の最終年度を迎え、3年にわたる蓄積を踏まえて、アカウントビリティを果たしつつ、実質的なFDをいかに実現していったらよいかについて、3人の報告者のそれぞれの視点からの総括報告を通じて、いくつかの方向性と課題を提示し、FDの今後の展開、それに向けての学会としてのあり方について、議論を深めるきっかけとしたい。

<報告者>

「FD義務化をどう受け止めるか(仮)」 夏目達也(名古屋大学)

「FDダイナミクス・モデルの形成(仮)」 田中每実(京都大学)

「FDの今後の課題—ダイナミクス研究からの提言(仮)」 絹川正吉(元国際基督教大学学長)

<コメンテータ>

「FDダイナミクス研究の報告を受けて(仮)」 寺崎昌男(立教学院本部調査役)

## 「科学技術リテラシー教育と『学士力』の育成」

文系・理系を問わず必要な素養として科学リテラシー教育が注目されている。その内容は、自然界を理解し、人間の活動を通して自然界を変化させることについて自分自身の力で意志決定ができるようにすること、証拠に基づいて結論を導いたり、疑問点を確認したり、科学的な知識を使用したりする能力を持つことなどである。大学レベルの科学技術リテラシー教育では、特に科学の主な概念や構造を理解し、用いることができるようにすることが必要である。その中には科学的探求や広い意味での工学的設計の方法も含まれる。物理学、化学、生物学、地球・宇宙科学などの固有の科学領域と関連させて、「知識」と「スキル」と「態度」の3つの要素を備えた学士力をどのように養成するか、高校と大学の接続、理系学士課程における位置づけをどうするかなどを考察する。

- 「すべての人のための科学とは何か？」 北原和夫 (国際基督教大学)  
「大学における普遍的な科学教育の展望」 鈴木久男 (北海道大学)  
「理工系学士課程カリキュラムの国際比較」 松岡正邦・吉永契一郎 (東京農工大学)  
司会：秀島武敏 (桜美林大学)・細川敏幸 (北海道大学)

### 15:45 閉会行事

学会長挨拶、次年度大会開催校・課題研究集会校紹介  
閉会挨拶 2008年度課題研究集会実行委員会副委員長  
橋本 勝(岡山大学教育開発センター)

### 16:00 閉会

## 2008年度課題研究集会に関するお問い合わせは下記にお願いいたします

〒700-8530 岡山市津島中2丁目1-1 岡山大学 教育開発センター

橋本研究室気付 課題研究集会実行委員会

TEL :086-251-7626 (橋本研究室) FAX:086-251-8440 (学務企画課)

e-mail: [vhashi@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:vhashi@cc.okayama-u.ac.jp) (問い合わせ専用)

[secr@cf.d.cc.okayama-u.ac.jp](mailto:secr@cf.d.cc.okayama-u.ac.jp) (申し込み専用)

HP <http://cf.d.cc.okayama-u.ac.jp/dkg08/>

## <課題研究集会参加要領>

### 1) 課題研究集会参加のお申し込み及び参加費払い込み

課題研究集会に参加される方は、①～③のいずれかの方法で参加登録をお願いいたします。申し込み締め切りは11月7日(金)を厳守とします。郵便振替口座への入金も同時をお願いいたします。

なお、締め切り後にご入金の場合、課題研究集会までに入金を確認できないことがありますので、ご入金時の郵便振替払込請求書兼受領証を必ずご持参ください。

参加者は参加者一名につき払込取扱票一枚でご入金ください。領収書は受付でお渡しします。

①FAX:同封の参加申込み用紙にご記入の上、086-251-8440 までご送信ください。

②郵便:同封の参加申込み用紙にご記入の上、下記までご送付下さい。

〒700-8530 岡山市津島中2丁目1-1 岡山大学 教育開発センター

橋本研究室気付 課題研究集会実行委員会

③e-mail: 参加申込の各項目を明記の上、タイトルに「課題研究集会」と記して、送信してください。e-mail: [seccr@cf.d.cc.okayama-u.ac.jp](mailto:seccr@cf.d.cc.okayama-u.ac.jp)

#### 参加費等

※課題研究集会参加費(『要旨集』を含む) 一般会員 5,000円 学生会員 1,000円  
非会員も参加費は同額。但し、一日目の特別シンポジウムのみ参加で要旨集を必要としない方は、準参加者として扱い、参加費は無料

※懇親会費(12月6日) 会員・非会員を問わず 5,000円  
但し、学生は 2,000円

※『要旨集』のみ 1,000円

- ・非会員の方も参加できます。「参加申込書」のコピー、郵便局備え付けの振込用紙等を御利用になり、上記と同様の手続きをしてください。
- ・学部学生や院生の方々参加しやすいよう、参加費及び懇親会費の割引をしています。会員の皆様におかれましては、非会員の学部学生や院生も含め、広く課題研究集会への参加を促していただきますようお願いいたします。また、これを機会に本学会加入呼びかけへのご協力もお願いいたします。
- ・当日の参加申込みも可能ですが、準備の都合上、事前手続きに是非ともご協力ください。
- ・お払い込みの参加費等は、理由を問わず返却いたしません。あらかじめご了承下さい。
- ・参加費等を払い込みながらご欠席の場合は、後日、『要旨集』をお送りします。
- ・課題研究集会当日は、課題研究集会の受付の他、学会事務局の受付も設置し、入会申込み、未納会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布等を行います。

### 2.) 12月7日(日)の昼食

キャンパス内の生協食堂(会場から徒歩3分のピーチユニオン、6分のマスカットユニオンの2か所)が11時から平常営業中です。また大学周辺に若干の食堂やコンビニがございます。このため、例年、手配するような弁当は今回は手配いたしません。各自で御自由におとり下さい。尚、生協は12月6日(土)も平常営業中です。

### 3) アクセスと宿泊のご案内

アクセスは大学ホームページで御確認下さい。<http://www.okayama-u.ac.jp/jp/access.html>  
尚、岡山駅からお越しになる場合、工事中西口から「岡山大学・岡山理科大学」行に約

8分間御乗車になり「岡大西門」でお降りになるのが最も便利です。参加申込書の裏面に時刻表を掲載しておりますので御参照下さい。(タクシーも西口からご利用下さい。「津島キャンパス50周年記念館」と告げれば約5分で着きます。)

#### 4) 宿泊について

宿泊については、原則として紹介・斡旋は致しません。各自で御自由にお取り下さい。但し、懇親会会場のホテルだけは先着順で割引利用できます。同封の案内を御覧下さい。

#### 5) 振替口座

会員の方は、同封の郵便払込取扱票を御利用いただくと便利です。なお、学会の年会費の郵便払込取扱票とは別になっていますので、ご注意下さい。

課題研究集会 郵便振替口座

加入者名：大学教育学会2008年度課題研究集会実行委員会

口座番号：01390-0-97964

---

#### オプション企画：学生発案授業「大学授業改善論」の参観と意見交換

課題研究集会の前日(12月5日：金)の午後または翌日(12月8日：月)の午前に岡山大学独特の授業の参観と授業担当者(橋本)との意見交換ができます。詳細は同封の別紙案内を御覧になり、別途お申込下さい。(各20名以内)

### 第四回大学教育学会奨励賞の募集について

2005年6月の本学会総会決定に基づき、第四回本学会奨励賞を募集いたします。自薦他薦は問いませんので、会員の皆様の積極的なご応募を期待します。詳細は、下記の「募集要項」をご覧ください。

#### ▼平成20年度大学教育学会奨励賞募集要項

1. (応募資格)本学会会員に限る。
2. (対象論文)本学会誌(28巻1号から30巻2号まで)に掲載された論文。
3. (提出書類)  
(自薦の場合)論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内)  
(他薦の場合)論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
4. (応募締め切り)**2008年12月19日(金)必着**
5. (提出先)〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757 北海道医療大学内  
大学教育学会 事務局 まで

## ＝事務局から＝

### ● 会費納入のお願い

今年度(2008 年度)の会費が未納の方および過年度の会費・会誌代が未納の方々は、10 月 31 日(金)までにご入金ください。(領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって替えさせていただきます。)

なお、入金状況について不明な方は、メールもしくは FAX にて4桁の会員番号を明記の上、お問い合わせください。追って、返答させていただきます。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金はなるべく郵便払込取扱票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、お手数でもご入金前に必ず事務局までその旨ご連絡ください。

### ● 被選挙人名簿確認のお願い

2009 年 4 月には、学会役員選挙が予定されています。これに伴い、被選挙人名簿の整理を行います。

- ① 現在、今年度末(2009 年3月 31 日付)で退会意志のある方。
- ② 送付先に変更のある方。

以上の方々は、お手数とは存じますが、2008 年 12 月 19 日(金)までにメールもしくは FAX にてご連絡くださいますようお願いいたします。

### ● 選挙管理委員会の設置について（お知らせ）

常任理事会で学会役員選挙に備え、越前 喜六、香西 敏器、佐々木 一也、本郷 優紀子、松岡 信之を選挙管理委員とする選挙管理委員会が設置されました。

### ● 次期事務所が決まりました

2009 年4月より、事務所が桜美林大学町田キャンパス内(東京都)となる予定です。詳細は、次回ニュースレターでお知らせする予定です。

### ● 大学教育学会第 31 回(2009 年度)大会について

2009 年度第 31 回大会は、6月6日(土)～7日(日) 首都大学東京 南大沢キャンパス(所在地:東京都八王子市南大沢 1-1 )にて開催予定です。

### ● 2009 年度課題研究集会について

2009 年度課題研究集会は、大阪市立大学にて開催予定です。

### ◆尋ね人◆ … 定期刊行物が返送されています。

お気づきの方、以下の方をご存知の方は、お手数ですが事務局まで情報をお寄せください。

- ◆濱口 豊太 ◆浜崎 盛康 ◆福留 東土 ◆石井 一成 ◆南 学  
◆辻 高明 ◆山本 雅也 ◆山中 司 ◆藤井 英子 (敬称略)



### 事務局 ● 北海道医療大学内

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL 0133-23-1487 FAX 0133-23-1487

E-mail ungakkai@hoku-iryo-u.ac.jp

URL <http://www.daigakuyoiku-gakkai.org/>